

遊工房アートスペース 年間報告書 2016



遊工房アートスペースでのアーティスト・イン・レジデンス事業は
平成28年度 文化庁 アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業として採用されました。

目次

・はじめに — 2016年、そしてこれからの展望

・遊工房アートスペースについて — ヴィジョン、ヴァリュー、ミッション

・寄稿 — 「作庭としての方向性」を通して」アルムート・リンク&カローラ・ブラツェック

— 「10周年のアーティスト・イン・レジデンス、フィンランドKulttuuri Kauppilaに参加して」相原正美

— 「50年ぶりのアルメニア」村田達彦

1. 主要事業

1-1 AIRプログラム

1-2 ギャラリープログラム

1-3 イベント - アーティストトーク、クリティック、セッションなど

2. 関連活動

2-1 AIR交流プログラム

2-2 Y-AIRの実践

2-3 ネットワーク活動

2-4 地域活動、コミュニティーアート

2-5 調査研究

2-6 アーカイブス

・出版物、掲載記事など

・2016年活動一覧 - Overview

* 本文中の記号について

文 文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業

M マイクロレジデンス関連事業

Y Y-AIR(若手アーティスト育成・教育プログラム)関連事業

E ECOC(欧州文化首都)関連事業

2016年、そしてこれからの展望

これまで、文化庁をはじめとする関係機関からのご理解と継続したご支援を頂き、マイクロレジデンス（注1）、Y-AIR（注2）などのユニークな活動に取り組むことが出来た。これらの活動をベースとして、遊工房AIR活動のこれまでの国際的な協力関係の再確認と、国内外の芸術家の双方向による国際文化交流の深耕とその継続できる仕組みを意識した、新たな始まりの年としての2016年であった（注3）。遊工房でのAIR滞在作家38カ国275名、展示作家200余名、こちらの支援、推薦で海外へ派遣した作家は100人を超えた。（2016.12月末時点）2016年全体を振り返り、以下、進捗の確認と共に、今後の課題・反省としたい。

従来から継続している一般公募の海外作家の滞在制作・発表活動と並行して、海外AIR機関との交換プログラム、国際機関との作家・研究者の受入や派遣のプログラムの展開が充実してきた。特に、当方の活動にご理解頂く美大教官との協働を背景に、Y-AIR展開として、Londonとのスタジオ交換プログラム2年目、国際的な視野を持った若い世代の活動支援のY-AIR仕組みづくりにチャレンジ、チェコPilsen市・西ボヘミア大学・ArtCampへの若手派遣及び作家の講師派遣4年目を迎え、多くの成果を残すことが出来た。個別の海外AIRプログラムとの交換としては、スロバキア・Kosice市KAIRとの継続展開ができた。2016年の海外派遣のトピックとしては、フィンランドのマイクロレジデンス・ネット・メンバーのKulttuuriKauppila10周年記念事業へ、台湾・台東市で開催の「台湾東海岸芸術節2016」へのそれぞれの参画があげられる。参加作家の力の入った活動は、さらなる今後の活動の原動力になったと確信している。国際機関からの推薦作家・研究者の受入れとして、秋に、地元の都立善福寺公園での国際野外アート展に合わせ、オーストリアからの作家ユニットによる公園と遊工房Galleryを連結した展示発表の活動の場が、2年の準備を経て実現できた。また、新たに「フィンランド作家協会」からの継続受入が始まり、活動分野の広がりともなっている。

上記の活動から滞在作家の展示発表の充実、研究滞在者の公開プレゼンなどを積極的に実施した。また、遊工房のスタジオ利用プログラムとして、在京の若手作家向けスタジオ・プログラム、YSPを4月から半年、Y-AIR活動に組入れる試行も実施できた。関連活動として、「マイクロレジデンス・ネットワーク」の充実を目的に、アルメニア、フィンランド、ロシアなど、訪問機会を生かし積極的な展開を図っている。対話の密度を重視した、フェイス・ツ・フェイスの関係を構築していきたい。

遊工房が作家の滞在、作の場となった1989年から30年を迎える時期を前後して、これまでの滞在作家のその後の活動を共に検証・共有する機会「おかえりなさいAIR」を2016年から始めたいと考えている。AIRの運用、アーティストの活動支援では、ヒューマニティーもひとつの重要な観点で、ヒューマニティとは完成されていないことであるとも言え、実は、不完全さの中にこそ、アーティストにとってのヒントとなる要素があるように思う。また、AIRが開かれるべきことのみが言及されがちであるが、アーティストにとっては、ヘトロトピア的AIR：ユートピア的だが特別な場所、開かれながら閉ざされていることが必要なのではないだろうか。

（注1）マイクロレジデンス

遊工房アートスペースが提唱した研究テーマの名称。多様な形で展開されているAIRの中で、特にアーティストが主導する小規模なAIRを「マイクロレジデンス」と命名し、2011年から調査・研究に取り組み、様々な活動を展開してきた。2012年よりネットワーク活動を開始している。

（注2）Y-AIR : AIR for Young

AIRと美術大学が連携し若手アーティストの滞在制作体験機会を提供するもので、芸術家を目指す若手美大生の、職業として、社会人として、また、生活者としてのアーティストになる為の貴重な体験プログラムとなるもの。個々のAIRと美術大学間の共同による実践を通し、国際間の交換プログラムへの拡大、継続性ある仕組みの構築を目指すもの。

（注3）アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通した国際文化交流促進事業

文化庁が2016年度より新たに開始したAIR活動支援プログラム。AIR実施団体の国際的な協力関係が活発になり、国内外の芸術家の双方向による国際文化交流が継続的に行われることが期待されている。

遊工房アートスペースについて

アートは社会と一体の不可欠なものであり、人々の生活に潤いと気付きをもたらすものです。

遊工房アートスペースは、独自のアート活動を通して、地域性と国際性、伝統文化と現代美術という一見異なる方向性を示す要素を繋ぎ、多様性が自然に受け入れられる場づくりや交流を実践しています。真摯に活動するアーティストの表現活動の支援と共に、地域社会の一員として、今後とも実践を通じたアート活動を継続していきます。

ヴィジョン

遊工房アートスペースは、多様な創作活動に応える実践の場となることでアーティストを支え、アートの社会的な役割とその重要性を提示することを目指しています。

バリュー(核となる価値観)

・開放性と交流:

アートは広く開かれるものであると同時に、異文化の人々のコミュニケーションと理解を育てるために必要なツールであると考えます。

・フレキシビリティ(柔軟性):

アートとアーティスト活動の本質に対して、私たちの活動はフレキシブルな取り組み方が不可欠であると認識します。

・自律性:

コミュニティや他の組織と強固なネットワークを保つことを大切にしながら、アーティストと遊工房自身の個性と多様性を維持します。

ミッション

真摯に活動続けるアーティストの創作・発表の活動を支援します。(AIR プログラム、ギャラリー・プログラム) 国内外のアーティストの交流、さらに地域社会の人々との対話を通じた相互理解の醸成を図り、多様性が受け入れられる社会の形成を目指します。(アート・イベント、トーク)

他の AIR センターやアートスペースとのネットワークを築き、より多くの人々がアートを楽しめる環境づくりに努めます。(Res Artis、J-AIR Network、AIR-J など)

人々がアートに接する様々な機会を生み出し、アートが社会にとって不可欠であるという認識を広まるよう努めます。

「作庭としての方向性」を通して

アルムート・リンク、カロラ・プラツェック

(2016年遊工房レジデンスアーティスト)

「遊工房アートスペースでの「今年のアーティスト」として選ばれたことは非常に光栄です。遊工房アートスペース・チーム、村田達彦、村田弘子、辻真木子に感謝します。海外からこのような大きなプロジェクトを発展させ、善福寺公園と遊工房アートスペースで公開し成功裏に活動でき、企画の初めから東京での実現まで、私たちのプロジェクトのあらゆる段階で、多大な支持と深い関心を寄せて頂いたことに。私たちの人生の中で最も満足のいく仕事の一体験でした。完全に信頼し協力し合い、プロジェクトのプロセスに対し継続的な注意、準備、セットアップ、パフォーマンスの全行程を通じて、私たちが体験したすべての支援と熱意に御礼申し上げます。遊工房アートスペースによって確立されていた完璧なバランス、それは人々の暖かさの交差を通して創られ常に心地よい出会いと場があり周到に考え出された体制であり、最も重要な体験のひとつとなりました。すべての仕事の基礎は「関係」、いわゆる共有の経験です。どのような関係かといえば、環境を形作っている関係と、その問題を引き起こす主題。関係とは、プロセスとして考えることができるものであり常に再調整されます。それは私達の一番の思い出になることでしょう。」



「体験」

空は上にあり
お化けは下にいる
全てが変わることを
私が待ち望む限り
その間を私は漂う
道を見つけることもなく

エンリーケ・ビラーマタス 「模範的な自殺」

ローザ・シュヴァルツァーは、デュッセルドルフのある美術館のポール・クレイ講堂の監視員であり、美術館の絵画に狭まれて、日常からの一日だけの逸脱を行っている。その前日彼女は50歳になったが、彼女の子豚の丸焼きを食べに来る者もいなかった。旦那と子供たちは言い訳をして来なかった。彼女は自分の人生から飛び出し、公園に一人の酔っ払いと着地する。新たな体験をし、その人生を生き続ける。

注記：遊工房・村田弘子

“Orientation as Gardening” Part 1-Tokyo’ と題したこのプロジェクトは、アルムート・リンクの「違い棚」と、カロラ・プラツェックの「詩の板」が日々交互に設置されていく。いわゆる「違い棚」の等身大の組立式棚構造のインスタレーションは公園の8カ所に対応した八景が準備され、八景の内の一景が、8日間、毎日入れ替わり遊工房から公園に展示され戻された。その日々の展示跡に、「詩の板」の8枚の内、設置の跡地に、適した1枚が選ばれ設置された。「詩の板」は関連の文献からヒントを得て作成された詩と、そのタイトルを3か国語を3枚重ねにして印されていた。尚、上記「体験」はその一つである。公園とギャラリーを舞台として日々行き来するという、パフォーマンス的な要素を伴う変則的なこの展示は、時間の経過で状況が変貌する演出された物語のようである。実現には2014年より日本の「作庭記」などの文献を基に、庭園を実際にリサーチする準備を経て、2016年11月3日から23日に国際野外アート展「トロールの森2016」に参加し、都立善福寺公園と遊工房アートスペースで実施された。会期中、トークの他、地域の知識人へのインタビューなども開催され、また滞在中水石の調査、京都や東北への追加リサーチも行われ、ロンドンとウイーンへ続くプロジェクトの充実した滑り出しとなった。

アルムート・リンクは、パートナーの建築家クリストフト共々、1990年代、神奈川県藤野町に在った「オーストリー芸術の家」の滞在を切っ掛けに始まった旧知、長期に渡るお付き合いであり。アルムートの研究パートナーである、カロラ・プラツェックは、今回の研究活動の核となった。他多くの協力者により展開される研究とその成果の発表であり、特に「違い棚」の制作は作家ゲラルド・フライムート/Gerald Freimuthの協力に寄るところが大であったと聞いている。

10周年のアーティスト・イン・レジデンス、フィンランドKulttuuri Kauppilaに参加して

相原正美

(フィンランド Kulttuuri Kauppila 2016年2006年 参加アーティスト)

2006年の秋、フィンランドのほぼ中央の街、オウルから北へ車で40分程行くとIIイー（世界で一番短い名前と言われている）という町で、Kulttuuri Kauppila(クルトゥリ・カウッピラ)アートセンターのアーティスト・イン・レジデンス（以下KK-airと略記）がその活動を開始した。レジデンスはこの町に住む3人のアーティストが中心になって立ち上げたのだが、その中の一人、Antti Ylonen（アンティ ユロネン）が日本のアーティスト・イン・レジデンスの草分け的存在の遊工房での初めての滞在制作アーティストであった。アンティは遊工房での素晴らしい経験をもとに自分の住むイーでもこの活動を始めたのである。そしてKK-airの始まりにも日本のアーティストを、と申し出て、遊工房を通じて、私が榮えある「初めての滞在制作アーティスト」となった。スタート時点では全てが新しかった。改装したてのレジデンスとアトリエ、キッチンやシャワールームはピカピカ、マリメッコのベッドカバーや北欧の色合いのリネンもピンピン。旅のホテルならうっとりする嬉しい環境だったが、道具や材料は見当たらず、これから何か活動を起こさなくてはならない作家としては、かなり緊張し、ドキドキしたことを思い出す。しかしながら、日を追うごとに協力者や、アーティストたちに出会い、最終的にはパルプの作品数点とフィンランドの松とガラスブロックを組み合わせた立体作品「Lotus」を制作、晩秋から初冬にかけていくつかのワークショップも開催し、成果発表ができたのだった。

光陰矢の如し、ではあるが、10年一昔、でもある。2016年に10周年を迎えるKK-airにまた滞在制作ができる機会を得ることになるなどとは思ってもいなかったもので、半年前に来日したアンティとそのパートナーで自らもアートプログラムを展開するKaisa Keratar（カイサ ケラター）から話を聞いた時は、10年前に過ごしたイーの人々やレジデンスのことが一気によみがえってワクワクした。その後二人の尽力と新しいディレクターMerja Brinon（メリヤ ブリオン）の企画によって、2016年7月25日から8月31日まで、10周年アーティストとして再び滞在制作と展示、ワークショップを実施することができた。

制作テーマは「Face to Face・喜怒哀楽」とし、人の表情をピクトグラムのように簡素化し、線的な木製レリーフを14点制作。さらには、渡航前に北海道十勝の子供たちと描いた自画像（鏡に映した自分の顔を透明フィルムになぞって描く）をKK-airに展示し、作品交換プロジェクトを展開した。

8月27日にはこの10年間、KK-airと常に良い関係を保ってこられた遊工房の村田達彦さん、弘子さんをお迎えして、イーの町長や関係者、地元の方々などと祝うことができた。滞在中にはKK主催のビエンナーレ(今年は北方民族サミットの作家を中心に展開)も見ることができ、私にとっては更に北へと想いを寄せた日々にもなった。アンティとカイサが出かけるというラップランドへのトレッキングに便乗し、ノルウェーにほど近い北極圏の町Inari（イナリ）まで連れて行ってもらった。10年前は冬のRovaniemiロバニエミ、そして今回は夏のイナリを旅し、広大な自然と共に生きる人々の叡智や力強さ、しなやかさ（具体的には、半分野生なトナカイ飼育、聖なる岩、森でのベリー摘みやキノコ採り、煙サウナ、川水浴、舟遊び、たき火、編み物などなど）を肌で感じることは、東京から北海道に制作場所を移して20年目になる私の今後のアーティストとしての生活に大きな影響を及ぼすと確信している。10年前にはできなかった地域交流（フィンランドと日本）も子供たちと共に実施し、イーのValtarin Koulu/バルタリン学校とKuivaniemi Kouluクイバニエミ学校の7年生がおおよそ130名参加。引率のKirsi Saravesi（キリシー サラベシ）先生とKK-airのアシスタントディレクター Taina Jyrkas（タイヤ ユルカス）が全面的に協力してくれ、短い時間ながらも7回のワークショップをこなすことができた。自画像には日本の人々に向けたメッセージを添えてもらい、日本から返信することで完結となる。1対1の交流こそが「フィンランドと日本を互いに知る、思うきっかけとなり、誰かと誰かが、いつかどこかで出会えるかもしれない」ワクワクドキドキの種まきなのである。帰国後の9月17日-23日には豊頃町「とかるね」=NPO・ASA主催「ココ to ミライ」、11月9日帯広・星槎国際高等学校 = 同NPO ASA主催、12月12日札幌・真駒内「まこまる」=Coミドリ主催「ココtoミライ in 札幌」 明けて2017年1月11日-22日帯広・ミントカフェ「Galleria ORYZA」=NPO・ASA 主催「Face to Face」にてワークショップを継続、すべての作品をつなぐことができた。最後にKK-air創設メンバーのAntti Ylonen、Kaisa Keratar、Sanna Koivisto、Helena Kaikkonen、初期ディレクターLeena Vuotovesiに深く敬意を表し、いつも変わらぬスタンスで背中を押してくださる遊工房アートスペース共同代表 村田弘子さん・達彦さん、NPO・ASA（オールシードアソシエーション）代表理事 千葉千栄美さん、写真家でGalleria ORYZAのオーナーでもある大久保真さんに心より感謝を申し上げ、今後とも海外で活動することで自分と自国である日本を再認識でき、次の制作や制作意義についてきちんと問うことができるレジデンス体験をより多くのアーティストのために応援し、協同してくださることをお願いいたします。



(撮影：下村一恵)



50年ぶりのアルメニア

村田達彦

(遊工房アトスペース)

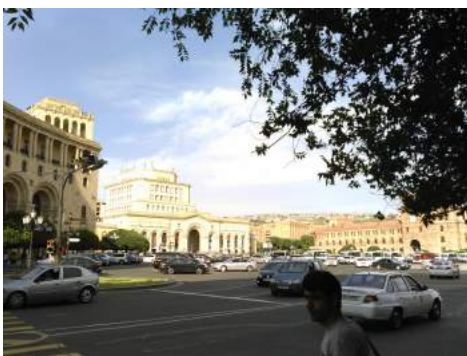
アルメニアの首都エレバンでAIR（アーティスト・イン・レジデンス）の国際ネットワーク・フォーラム参加の機会を得て、今年（2016年）6月に50年ぶりにアルメニアを訪ねた。<http://microresidence.net/>

アルメニアは、日本には馴染みが薄い国かもしれない。コーカサス山脈南の高地に位置し、西はトルコ、東はアゼルバイジャン、北はジョージア、南はイランに接する内陸国家。肥沃な大盆地にあり、南方向にアララト山（「ノアの方舟」が漂着した高山）を望む、ワインやコニャックの故郷として知られている。古代から続くアルメニア王国は、黒海からカスピ海、地中海にまたがる広大な時期もあり、西暦301年世界最初のキリスト教を国教とした国。中世以降さまざまな時代背景の基で、多くのアルメニア人がディアスポラとなり世界に離散を重ねた。1991年旧ソ連から独立、昨年2015年はオスマントルコによるジェノサイド（トルコ側との認識に大きな開きがある）から1世紀の大きなイベントがあった。ベネチアビエンナーレ2015で、「アルメニア館／虐殺と民族離散の歴史から」が金獅子賞を受賞したことは記憶に新しい。また、今年6月末、ローマ法王のアルメニア初訪問があり、日本でも少しはニュースに上ることがあったことと思う。

小生工科大生の1966年、トルコ・イスタンブールで3か月の工場実習の機会があり、その終了後、アナトリア地域から当時のソ連・コーカサス地域を回った。当時トルコとソ連の国境通過は容易なことではなかった。トルコ東端の国境の町カルスから、西アルメニアの中心地ギyumリ（当時の名はレーニンを冠したレニナカン）に渡るために1週間の足止めを食らった。対岸の国・ソ連は当時先進国、豊かな電力に支えられ輝いていた記憶が鮮明だ。当時はどっしりとした威厳を漂わせていたが、現在は、すっかり現代的に変貌、旧ソビエト・アルメニアのホテルは米国資本の近代ホテルと様変わりしている。調度、市の中心にある現代美術の実験展示場（ソビエト時代の芸術センター）では、第2次大戦前後の祖国帰還とその時代の民族の悲劇を扱ったドキュメンタリ展示が開催されていた。また、301年に建造された世界最古の教会・エチミアジン大聖堂に、同伴した妻と立寄ることが出来、感慨深いものがあった。現地の仲間の計らいで、4世紀に一枚岩をくり抜いて作られた洞窟教会での日曜礼拝、紀元前3世紀のガルニ太陽神殿があるアサド渓谷地帯の世界遺産巡りが出来たことに感謝している。島国日本の歴史観では計り知れないものを感じたが、再訪が半世紀の時間を経たとは思えない人と人の出会いや対話は、いともたやすく空白の時間を埋めてくれた。

こうした歴史を身近にした時、今我々の知る文化の世界史、欧米中心の世界観との違和感のようなものを感じる。日本が西欧一辺倒の歴史教育を育んで来た訳で無いと思うが、多様な世界史の存在を知る機会の少ない現実に疑問がある。西欧からの視点の世界史は、世界史を普及する力のなせる業でしかないことを、これまでの人生の旅、特にコーカサス、バルカン、東欧、中近東の旅から身を以て思う。

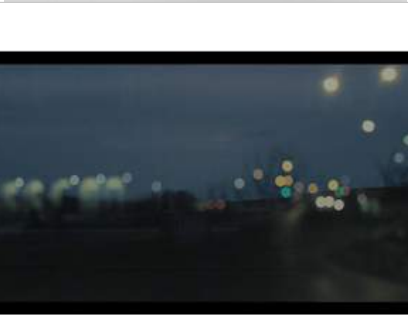
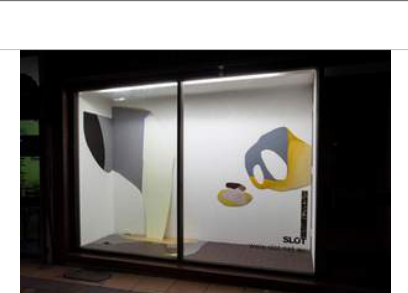
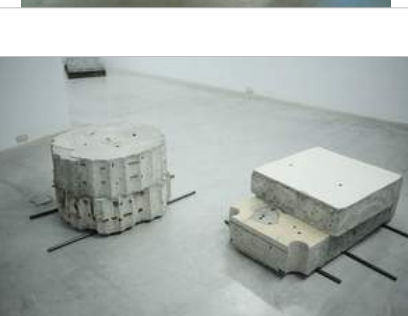
江戸末期、キリスト教正教会（通称、ギリシャ正教）の信者となった我が先祖の影響で、コンスタンチノーブル（現イスタンブール）に憧れ、幾度も足を運んだトルコ。ビザンチン文化の主流は何時の間にか東ローマ帝国に追いやられ、ローマがあたかも中心の西欧の賢者の先見には何とも不思議な、歪曲化された世界観の現実と考える。今、西半球で起きている大量の移民・難民問題も基をただと、この起点に戻るのではないかと、テロ騒ぎの容易でない解決策の糸口として強く感じている。現実の直視、多様性の認識、そして違いを受け入れる寛容さ、それがアートの役割の一つと確信している。



1 主要事業

1-1 AIRプログラム

2016.01.05 - 2016.02.29	ケイト・ジャスト
2016.02.01 - 2016.02.29	ジョッシュ・リチャードソン&ジョッシュ・シャクルトン (Hildoceras)
2016.02.01 - 2016.02.28	アニー・ニュー
2016.03.01 - 2016.04.30	ジュリア・マキナニー
2016.03.01 - 2016.03.31	カリーン・ヴァンデカルホフ
2016.03.02 - 2016.03.30	ティン・チャオン・ウェン
2016.04.01 - 2016.05.31	マーリン・ペッターソン・オバーグ
2016.04.01 - 2016.04.30	ジョーダン・マッジ
2016.05.01 - 2016.07.31	ディアナ・ダウリング
2016.05.02 - 2016.06.15	ショーン・ラヴェール
2016.06.01 - 2016.06.30	ブレンドン・オニール
2016.06.01 - 2016.06.30	サラ・ベルトラン・ハメル
2016.06.16 - 2016.07.31	エレノ・ターンプル
2016.07.01 - 2016.07.31	ヨハナ・カーリン
2016.08.01 - 2016.09.30	スーモ
2016.09.01 - 2016.10.31	リオニ・アンドリュース
2016.09.01 - 2016.09.30	ハンヌ・ヴァイサネン
2016.10.01 - 2016.11.30	ラデック・ブラウシル
2016.10.03 - 2016.10.30	ティーナ・レヒコイネン
2016.10.27 - 2016.11.25	アルムート・リンク&カローラ・プラツェック
2016.11.01 - 2016.11.30	ヴァネッサ・ゴデン
2016.11.02 - 2016.11.30	マーリン・キヴェラ&ハンネル・ミカエラ・タイヴァッサロ
2016.12.01 - 2017.01.31	フランク・レスブロス
2016.12.01 - 2017.01.31	ナオミ・リース

2016.01.05 - 2016.02.29 ケイト・ジャスト[オーストラリア] オーストラリアを拠点に活動しているアメリカ出身のビジュアル・アーティスト。2002年以来、編み物、樹脂、粘土、コラージュ、フォトメディア等、幅広い手法を用いて多くの作品を制作。フェミニストによる女性の身体や成人女性に関する表現の発展、そしてそれらを包含する具体化した主観的な焦点を持つ。滞在終盤には、日本でリサーチして繋がったフェミニストアーティスト数名を集め、グループ展を開催した。	
2016.02.01 - 2016.02.29 Hildoceras ジョッシュ・リチャードソン&ジョッシュ・シャクルトン[オーストラリア] ジョッシュ・リチャードソンとジョッシュ・シャクルトンの2人でHildocerasとして活動。メディアをベースにオーディオヴィジュアルやインスタレーション等を展開。彼らは環境の観点と景色の認識を議論する概念を探究する。工業的／都会的なライフスタイルと自然の風景の対照的な局面に焦点をあて、日本各地で撮影をし、滞在の終盤では共同制作の映像作品をオープンスタジオにて発表した。	
2016.02.01 - 2016.02.28 アニー・ニュー[オーストラリア] 青春期における人格形成の時に培った、異なる国での小さな解決法の積み重ねの結果、「移住」や「アイデンティティ」を芸術の実践の芯とする。今回の訪問もあまり知らない環境に自分を置くためであり、適応能力の感情を呼び起こし、自分なりの方法でうまく切り抜く場所を見つけるための訪問であった。滞在の終盤では紙の実験的な作品をオープンスタジオにて発表した。	
2016.03.01 - 2016.03.31 カリーン・ヴァンデカルホフ[オランダ・ベルギー] この数年間、彼女はドローイング、インスタレーション、模型、写真といった主要なメディアを通し、様々な作品シリーズを作ってきた。それは常に光と空間への探究であり、知覚と感情を同時に呼び起こす默想的なものである。2016年以來の2度目の滞在となる今回は、これまでの作品シリーズを展開させるべく、展示空間を事前に理解した上で制作し、展覧会を開催した。	
2016.03.02 - 2016.03.30 ティン・チャオン・ウェン[台湾] 台中市、台湾を拠点に活動しているインスタレーション作家でありビジュアル・デザイナー。作品には、レディ・メード・オブジェが含まれており、我々が共有している歴史を革新的に脱構築・解釈・再解釈させる。最も有力な価値、植民地化・移住・文化に対する集合的メモリー等の歴史的な争い、そしてそれらの横断的な存在を考察している。滞在中はリサーチ活動をし、滞在の終盤にはアーティストトークを実施した。	
2016.03.01 - 2016.04.30 ジュリア・マキナニー[オーストラリア] アデレード、オーストラリアを拠点に活動しているアーティスト。2011年に、Adelaide Central School of Artにて、ビジュアル・アート専攻学士を取得し、2015年にAdelaide Critics Circle Emerging Artist Awardを受賞。滞在中は、様々な素材を探究し、新しい環境や文化との出会いから解釈される、将来の作品のための試作をオープンスタジオにて発表した。	

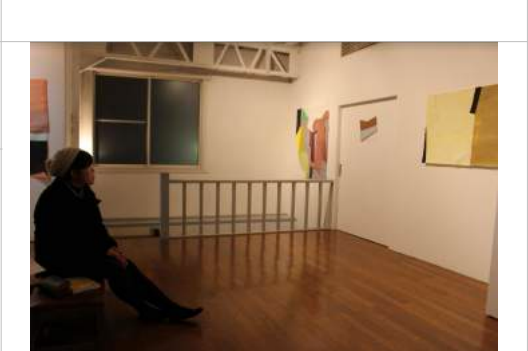
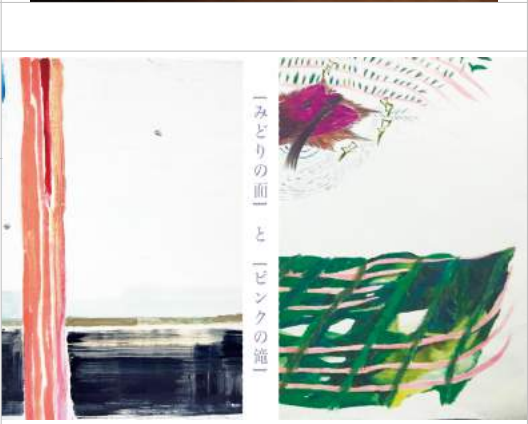
2016.04.01 - 2016.05.31 マーリン・ベッターソン・オバーク[スウェーデン] 様々なメディアを使用しているビジュアル・アーティストである。リサーチを中心とした芸術活動を基盤に、居所や文化・国家に対するアイデンティティーを探究している。滞在中は、日本で1974年から行われている研究である「放射能とそれが持つ時空間との関係」について研究した。活動は、東北地方や国際交流基金の図書館への訪問、そして様々な研究者、アクティビスト、芸術家等とのミーティングを通して行い、終盤にアーティストトーク、美術大学での講義も担当した。	
2016.04.01 - 2016.04.30 ジョーダン・マッジ[オーストラリア] メルボルンを拠点に活動している若手写真家（1995生まれ）。旅や物語の筋の形成・伝え方に感心があり、作品を作る過程には、イメージの流用、見出されたもの、自身で取った写真の使用が含まれている。2015年Photography Studies College Melbourneにてドキュメンタリー写真専攻を卒業。滞在中は、日本に対する既存のイメージと自身の感性を再構成した写真やインスタレーションをオープンスタジオにて発表した。	
2016.05.01 - 2016.07.31 ディアナ・ダウリング[ニュージーランド] 提携国際機関推薦プログラム（Asia New Zealand Foundation）招聘アーティスト。主にビデオや彫刻を中心に作品を制作している。経済成長と都市再生、そしてそれらがどう物理的・文化的に土地に影響しているかについての関係性を探究している。議論・相談・コラボレーションを通して、地元の知識・価値システムを尊重し、同時に作品を作っていくプロセスに活気を与える。滞在中は、木材に焦点を当て活動し、終盤にインスタレーションをオープンスタジオにて発表した。また、美術大学での講義も担当した。	
2016.05.02 - 2016.06.15 ショーン・ラヴェール[イギリス] 異文化の人々が日常的にどのように材料を利用し、ものを作っているのかを観察することで、新しい場所がどのように、自身の思考や制作に影響するかを探究した。滞在中は、本プログラムに参加する日本人作家等との交流を通し、日本のアートシーンを探りつつ滞在中には6週間の活動成果をオープンスタジオにて発表した。 ＊London/Tokyo Y-AIR Exchange Program招聘アーティスト。	
2016.06.01 - 2016.06.30 ブレンドン・オニール[カナダ] 写真をベースにしている作家。初期の作品は主に、伝統的なストリート撮影の手法で人々の写真を撮影してきた。現在は、時々、抽象化という点で、無人の環境とコンテキストに焦点を当てている。一方、最新の作品においては人の存在が感じられ、神秘的で小さなストーリーを組み込む傾向もある。滞在中は、進行中の「Leftovers」（残り物）シリーズを継続し、終盤にはアーティストトークを実施した。	
2016.06.01 - 2016.06.30 サラ・ベルトラン・ハメル[カナダ] モントリオールに在住し活動。材料の研究を進める中、一枚一枚が異なる表情を持つ紙作りに関心を持ち、作品を繰り返し再解釈する活動を展開。イメージの変化と入れ替えに興味があり、変化を追い時間の経過を表そうとしている。滞在中は、紙づくりの研究と高度な訓練に焦点を当て、特に糸づくり（紙布）、和紙づくり（流し漉ぎ）、紙パルプで作った立体を学んだ。終盤には、1ヶ月の活動を紹介するアーティストトークを実施した。	

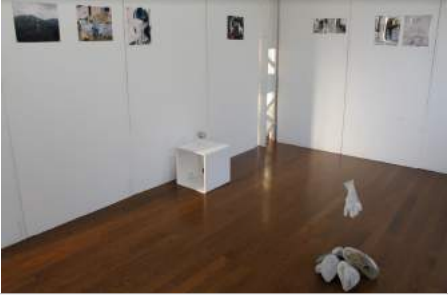
2016.06.16 - 2016.07.31 エレノ・ターンブル[イギリス] 1992年生まれ。ロンドンを拠点に活動している。立体、ドローイング、長期間のパフォーマンスの作品を作っている。彼女はある課題を課して作品を作り、素材や制作経過自体が作品の形体を規定している。滞在中は、都市のリズミカルかつ瞑想的な構造、日常生活のルーティーンに対する異例や混乱を探索し制作した。終盤には6週間の活動成果をオープスタジオにて発表した。 ＊London/Tokyo Y-AIR Exchange Program招聘アーティスト。	
2016.07.01 - 2016.07.31 ヨハナ・カーリン[スウェーデン] 主に建築に繋がる様々なプロジェクトの取組みや研究活動を進める。これらは、建築に関連したサイトスペシフィックなインスタレーションから、建築模型のような規模まで幅広く展開される。滞在中には、建築の時間性に纏わるプライベートとパブリックの両方の空間での異なるプロジェクトを探索した。また、マイクロレジデンスに関心を持ち、オランダ島にある自身の住居兼アトリエや世界の小規模AIR、そこでの活動等を紹介するプレゼンテーションを実施した。	
2016.08.01 - 2016.09.30 SUMO スーモ[ルクセンブルク] 芸術的發展における形成要素としてグラフィティやストリートアートは重要ではあるが、彼の溢れ出る作品の単なる一面に過ぎない。構成は正確なルールに従うことなく、ステートメントやスローガン、モチーフ、強烈な色がウイルスのように画面をいっぱい満たす。彼は時間をキャンパスに記憶し、東京に対する印象をスローガンや字体・色構成といった形に変換させた。壁画や平面作品を制作し、ルクセンブルク大使館と遊工房で展覧会を開催した。	
2016.09.01 - 2016.10.31 リオニ・アンドリュース[オーストラリア] 提携国際機関推薦プログラム（オーストラリア・Asialink）招聘アーティスト。都市郊外の落書きやうつろいやすいもの（一過性なもの）を記録し、人々がどのように都市環境と関わっているかについて調査し、地域の景観や刺繍の活動からインスピレーションを得て、社会論評のための道具として作品を使っている。滞在の終盤には活動の成果をオープスタジオにて発表した。	
2016.09.01 - 2016.09.30 ハンヌ・ヴァイサネン[フィンランド] オウル生まれ、パリを拠点に活動。アーティストであると共に文楽に関する評論もしており、滞在中は、主に日本の文楽グループのために将来の演劇作品を書き、伝統的な劇場形式の研究もした。滞在期間の最後に、これまでの自身の執筆およびアート活動の紹介、滞在中の活動等をプレゼンテーションした。＊2016年からThe Union of Finnish Writersとの交流プログラムを開始。（3ヶ月間/年 3年間）	
2016.10.01 - 2016.11.30 ラデック・ブロウシル[スロバキア/チェコ] 国際AIR間交流プログラム（スロバキアKAIR/Oskár Čepan Award 2015受賞者）招聘アーティスト。長期にわたって、写真媒体の分析に焦点をあてている。シリーズ“The Ultimate Norm(最高基準)”では、カラー写真における技術改善とその背景にある人種差別について掘り下げている。滞在終盤には、写真とインスタレーションをオープスタジオにて発表。また、美術大学での講義も担当した。	

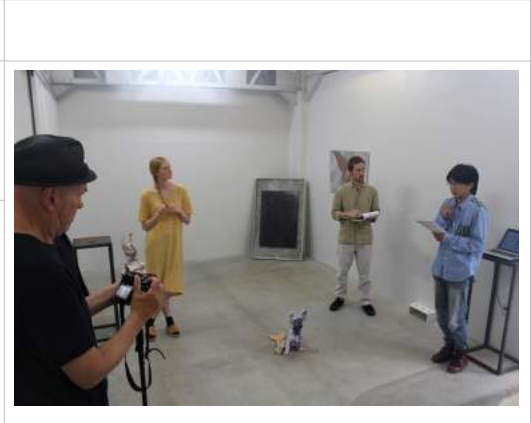
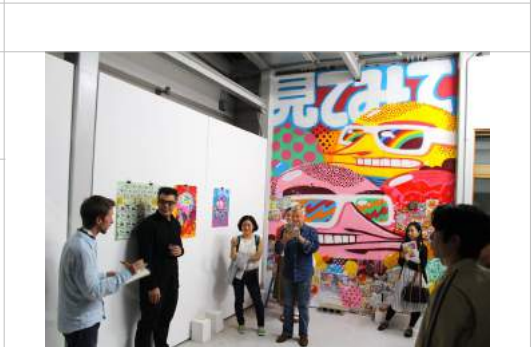
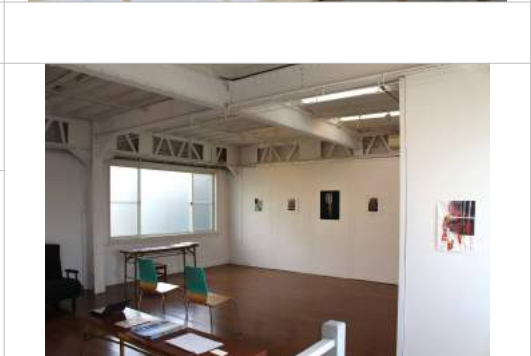
2016.10.03 - 2016.10.30 ティーナ・レヒコイネン[フィンランド] タンペレを拠点に活動するフィンランドの詩人。詩や現代の格言に関する5つのコレクションを出版している。作品の言語の断片化は、インターネット時代の吐瀉情報による遮断を反映している。滞在中は、彼女の初の短編集を書き終え、次の詩集作成に取り組んだ。終盤にはこれまでの自身の執筆およびアート活動の紹介、滞在中の活動等をプレゼンテーションした。*2016年からThe Union of Finnish Writersとの交流プログラムを開始。(3ヶ月間/年 3年間)	
2016.10.27 - 2016.11.25 アルムート・リンク&カロラ・プラツェック[オーストリア] アルムート・リンクはウィーンを拠点に活動するアーティスト。彼女の作品はリバプール、ロンドン、東京、横浜、エルサレム、ウィーン、ミュンヘン、北京などで展示されるなど、国際的に活動。カロラ・プラツェックはウィーンを拠点に活動するライター/リサーチャーである。自身の執筆活動を追求すると共に、アーティストとの共同活動に勤しんだ。二人はトロールの森にコラボレーションプロジェクトを出展し、インスタレーションを善福寺公園と遊工房アートスペースに展示した。	
2016.11.01 - 2016.11.30 ヴァネッサ・ゴデン[オーストラリア] メルボルンに拠点を置く、ミクストメディア・アーティスト。現在ヴィクトリアン・カレッジ（オーストラリア）で博士号を取得中。彼女の作品はドローイングから、パフォーマンス、ビデオインスタレーション、およびブックアートを含み媒体は多岐にわたる。滞在中は日本の刺繍技術習得、そしてホラー映画や舞踏で表される身体の惨めさの形態を研究。滞在終盤では、映像作品の展示とパフォーマンスをオープンスタジオにて発表した。	
2016.11.02 - 2016.11.30 マーリン・キヴェラ&ハンネル・ミカエラ・タイヴァッサロ[フィンランド] マーリン・キヴェラは、これまで三点の小説のほか、演劇や子供向けの本を出版しており、パフォーマンスの分野でも活動中。彼女の文書は完璧な物語によるというよりも、新しい形を模索し具体的な文書を作り出そうと試みている。ハンネル・ミカエラ・タイヴァッサロは、児童文学やドラマ、舞台演劇だけではなく、ラジオドラマのための4つのスクリプトも書いている。詩集や雑誌、新聞などにエッセイや短編小説を発表している。共に忍者のリサーチをし、新しいパフォーマンスへの準備を続けた。	
2016.12.01 - 2017.01.31 ナオミ・リース[日本/アメリカ] メルボルンに拠点を置く、ミクストメディア・アーティスト。現在ヴィクトリアン・カレッジ（オーストラリア）で博士号を取得中。彼女の作品はドローイングから、パフォーマンス、ビデオインスタレーション、およびブックアートを含み媒体は多岐にわたる。滞在中は日本の刺繍技術習得、そしてホラー映画や舞踏で表される身体の惨めさの形態を研究。滞在終盤では、映像作品の展示とパフォーマンスをオープンスタジオにて発表した。	
2016.12.01 - 2017.01.31 フランク・レスブロス[フランス] メルボルンに拠点を置く、ミクストメディア・アーティスト。現在ヴィクトリアン・カレッジ（オーストラリア）で博士号を取得中。彼女の作品はドローイングから、パフォーマンス、ビデオインスタレーション、およびブックアートを含み媒体は多岐にわたる。滞在中は日本の刺繍技術習得、そしてホラー映画や舞踏で表される身体の惨めさの形態を研究。滞在終盤では、映像作品の展示とパフォーマンスをオープンスタジオにて発表した。	

1-2 ギャラリープログラム

2016.02.20 - 2016.02.26	ケイト・ジャスト、石井 言絵、五十嵐 恵、岩間 香純、嶋田 美子、 YU Shuk Pui Bobby、明日少女隊[オーストラリア、日本、中国他] Feminist Fan in Japan and Friends
2016.02.20 - 2016.02.26	アニー・ニュー[オーストラリア] 液体、紙とその間の空間
2016.02.20 - 2016.02.26	ジョシュ・リチャードソン、ジョシュ・シャックルトン (Hildoceras)[オーストラリア] 未完成な場所
2016.03.23 - 2016.03.27	小津航、東山詩織[日本] [みどりの面] と [ピンクの滝]
2016.03.23 - 2016.03.27	カーリン・ヴェンデコーヴ[オランダ・ベルギー] sKinHouse. ed 2
2016.04.27 - 2016.04.29	ジョーダン・マッジ[オーストラリア] Shōkai
2016.04.27 - 2016.04.29	ジュリア・マキナニー[オーストラリア] recently my eyes - 最近の私の視点
2016.06.05 - 2016.06.12	草野温子、郷治竜之介、布施琳太郎、ジェシー・ホーガン、村田啓、山形一生[日本] ヴ・・・ン
2016.06.05 - 2016.06.12	ショーン・ラヴェール[イギリス] Sean Lavelle
2016.07.20 - 2016.07.25	ディアナ・ダウリング[オーストラリア] Young wood is restless
2016.07.20 - 2016.07.25	エレノ・ターンブル[イギリス] How to fill in the time
2016.07.20 - 2016.07.25	堀内崇志、秋山拓、井田大介、江藤佑一、木本諒、豊島鉄也、鳥井祥太 山形一生、根本祐杜[日本] 実験中
2016.09.21 - 2016.09.25	スーモ[ルクセンブルク] こっちみて！
2016.09.21 - 2016.09.25	郷治竜之介・堀内崇志[日本] Youkobo Y-AIR Studio Program 2016 活動成果展
2016.10.26 - 2016.10.30	リオニ・アンドリュース[オーストラリア] このとき
2016.11.03 - 2016.11.23	アルムート・リンクとカロラ・プラツェック[ドイツ・オーストリア] Orientation as Gardening - 作庭としての方向性
2016.11.23 - 2016.11.27	ラデック・ブロウシル[チェコ] 富士を望まない限り 富士の上のコダック
2016.11.23 - 2016.11.27	ヴァネッサ・ゴッデン[オーストラリア] もどかしさの体現

2016.02.20 - 2016.02.26 ケイト・ジャスト、石井 言絵、五十嵐 恵、岩間 香純、嶋田 美子、 YU Shuk Pui Bobby、明日少女隊 Feminist Fan in Japan and Friends 世界中のフェミニストの芸術家の自画像や作品を毛糸で編んだ、現在進行中の作品シリーズを継続し、日本の芸術家をモデルに制作した。作品を通して用いている編み物は、工芸品として非常に魅力的で立体的な表現、そして詩的且つ政治的ツールとして提示している。また、女性芸術家についてリサーチし、日本のみならず世界中で活躍する新進作家や活躍している作家を選び、現在起っているフェミニストの芸術活動の一端を提供した。	
2016.02.20 - 2016.02.26 ジョシュ・リチャードソン、ジョシュ・シャックルトン (Hildoceras) 未完成な場所 工業的／都会的なライフスタイルと自然の風景の対照的な局面に焦点をあて、特に人の営みと水の関係や森の中を流れる川や海などを日本各地で撮影し、大画面に映像作品を投影した。また、水のサウンドビジュアルワークも制作した。これらの作品は、観客に自身の日常的な周辺環境の再考を促すものとなった。	
2016.02.20 - 2016.02.26 アニー・ニュー 液体、紙とその間の空間 滞在中は様々な日本の紙や絵の具、インク等を試して制作をした。その行為は浸透という過程を思い起こさせる。媒体としての身体のプロセスでもあり、身体が吸収や排出、触り触れることを通して環境を理解することも想像させた。物質とプロセスを経た顕在化のための素材の選択的利用を通して、東京に滞在している間、居住空間をどう無意識的に同化し、切り抜けられるかという過程を作品に反映させた。	
2016.03.23 - 2016.03.27 小津航、東山詩織 [みどりの面] と [ピンクの滝] London/Tokyo Exchange program2015に参加し、ロンドンのAcme studiosにて6週間の滞在制作を行った小津航、東山詩織による成果展。小津は1年に渡ってロンドンを含め様々な国を周り、東山はロンドンで蚤の市をリサーチしてきた。展示では、海外を渡り歩き見た情景や追憶を描いたペインティングや、蚤の市で買いためた手紙やハガキなどの過去の記憶を元にした作品を発表。また、互いにリクエストされた作品タイトルに合わせ制作する共同制作作品も展示した。会期中、ロンドン滞在中の活動紹介や展示についての報告会も実施した。	
2016.03.23 - 2016.03.27 カーリン・ヴェンデコーヴ sKinHouse. ed 2 スペインの研究センターJoya: arte + ecologiaで開催された「sKinHouse 'ed. 1」(2014年11月)の継続であり、今回は遊工房アートスペースの空間、そしてその空間を持つ歴史的背景になぞらえた展覧会を開催。本プロジェクトは、サイト・スペシフィックであり、展示空間の溢れ出る自然光に響き合うように作られた作品は「光」と「空間」が感知出来る要素となり、東西を融合させる瞑想の場となった。	

2016.04.27 - 2016.04.29 ジュリア・マキナー recently my eyes - 最近の私の視点 彼女は、言語の文学的な秩序と物理的な材料の彫刻的秩序の二つを組み合わせ「第3の言語」をつくることに力を注ぐ。タイトルの役割と材料の説明は、彼女の作品にとって重要な要素であり、目に見えるものと見えないものの本質を墨汁や塵を使ったインスタレーション作品を通して表現した。	
2016.04.27 - 2016.04.29 ジョーダン・マジ Shōkai 滞在中に出会った人や景色を写真におさめ、生活のペースが遅い静かな田舎町から、脈わって混沌とした都市の特徴などを対比しながらを探った。その要素は見つけたオブジェクトや写真だけでなく、自分自身をも使って、新しく形成された友情を通して日本についての新しい会話を作り出すことで、日本との友好関係の構築について表現した。	
2016.06.05 - 2016.06.12 草野温子、郷治竜之介、布施琳太郎、ジェシー・ホーガン、村田啓、山形一生 ヴ・・・ン Youkobo Studio Program2015の活動として、郷治竜之介キュレーションのもと開催された6人の若手アーティストとのグループ展。ざわめきのなかで生起する芸術を考えるという地点から発案され、ビデオ作品、ペインティング、彫刻など、それぞれ異なる媒体や表現を用いて構成される展示空間から、作品自体そして観る者が何らかの関係性に巻き込まれるような、芸術の作用・反作用を問うものとなった。	
2016.06.05 - 2016.06.12 ショーン・ラヴェール Sean Lavelle 建築や構造物に関心があり、日常的にリサーチ・記録収集をした。大学見学や東京のアートシーンを巡り、同年代のアーティスト等との交流も積極的に行った。コンクリートやコインなどを使ったインスタレーション作品をはじめ、普段から扱っている素材を日本のものに置き換えなどして、ユーモアのある作品を制作した。材料とコンテキストに対する自身のアプローチを再考する機会となった。	
2016.07.20 - 2016.07.25 ディアナ・ダウリング Young wood is restless 日本における物質に対する感性の文脈を通し、自分自身と材料の関係を探求した。日本の木造建築や木工技術に関心を持ち、木を軸にいたインスタレーションを展開。建築家へのインタビューも実施した。近隣の民家の建て壊しに立ち会い、記録映像を撮影すると共に、古い木材を入手し、映像作品と木のインスタレーションを展示。また、その木材は母国へと持ち帰り、作品を再構成・発表するプロジェクトを現在、ウェリントンのギャラリーで企画中。	

2016.07.20 - 2016.07.25 エレノ・ターンブル How to fill in the time 彼女の作品は、単調と混沌のバランスを見つけ、急速に変化する我々が生きている環境を理解しようとするものである。都市の一定の変化の中、特定の瞬間を具体化しようと、普段何気なく存在しているが、目には見えない空気をユーモアを持って可視化させるインスタレーションを展開。映像やドローイング、彫刻、インタラクティブな作品など様々なタイプの制作に挑戦した。	
2016.07.20 - 2016.07.25 堀内崇志、秋山拓、井田大介、江藤佑一、木本諒、豊島鉄也、鳥井祥太、山形一生、根本祐杜 実験中 彼は非公開ミーティングの場を解放し、展覧会のように見せた。彼は友人等と共に自分たちの苦悩や問題を共有し、解決するため1夜限りの会議を開催した。London/Tokyo Y-AIR Exchange Programのロンドン滞在制作の際、同世代のアーティストたちが自身の作品や活動に関して熱く議論している状況にショックを受けたという経験があり、日本で議論というものの必要性を感じたという背景がある。	
スーモ 2016.09.21 - 2016.09.25 こっちみて！ 大使館では滞在中に制作したキャンバスなどの平面作品を中心にエントランスギャラリーにて展示。現在も一部作品が常設展として見る事ができる。遊工房では滞在中に収集したキャラクターや看板、フォント等の紙媒体をカラージュしたものの展示や、スタジオの壁面一面にグラフィティを描き、インパクトのある作品を仕上げた。	
郷治竜之介・堀内崇志 2016.09.21 - 2016.09.25 Youkobo Y-AIR Studio Program 2016 活動成果展 Youkobo Y-AIR Studio Program 2016 活動成果展として、郷治竜之介によるペインティングと堀内崇志の企画した会報誌の初版が展示された。両者共にロンドンでのアーティスト活動と自身のフィールドを比べた際に、"議論"の場が足りていなかったと感じ、他者との対話や個の制作行為など、本プログラムの経験から浮かびあがる諸問題を改めて思考・検討する場とした。	
リオニ・アンドリュース 2016.10.26 - 2016.10.30 このとき 以前の日本訪問は、彼女自身の文化経験と彼女が日本で体験したものとの間で繋がりとずれを如実にした。今回の滞在では、東京の郊外生活を模索した。滞在中に見かけた日常の風景を写真で撮影し、布に印刷したものに刺繍を施すという作品を展開したり、日本の広告媒体にも関心を持ち、紙のカラージュなど新たな領域の作品制作も試みた。	

アルムート・リンクとカロラ・プラツェック 2016.11.03 - 2016.11.23 Orientation as Gardening - 作庭としての方向性 トロールの森の出展作品として、遊工房アールスペースと善福寺公園を会場に、8種類の組立式ボード「違い棚」の集合体と、8部の物語テキストを用いた、インスタレーションを展示した。会期初日から8日間、8つの“庭”の物語として形と場所を変えながら、連続して展開。会期中には、地元の専門家などを交えたトークセッションも開催した。	
ラデック・ブロウシル 2016.11.23 - 2016.11.27 富士を望まない限り 富士の上のコダック カメラの技術発展と肌の色との関係性を調査研究テーマとし、富士フィルムに焦点を当てリサーチを進めた。また、日本人と外国人のメイクアップでつくりたい肌色に対する意識の違いなどの研究を深め、写真作品やインスタレーション等を制作発表した。また、美術大学にてスロバキアおよびチェコの文化や自身の活動プロジェクトの紹介を学生や教員、一般に向けた公開講座で実施した。	
ヴァネッサ・ゴッデン 2016.11.23 - 2016.11.27 もどかしさの体現 滞在中は、刺子など日本の伝統的な刺繍技術を教わったり、舞踏の鑑賞、実験的なホラー映画の撮影などを通して、自身の表現の幅を広げる活動を積極的に行った。オープスタジオでは過去の映像作品の展示とともに、パフォーマンスをレセプションにて実施。テーブルの上でカレー粉、小麦粉、七味唐辛子にまみれながらテーブルの上で15分のパフォーマンスを展開。自身のマルチ民族性や自叙伝的な経験、レイブ後の状態のもつれなどを伝えた。	

1-3 イベント、アーティストトーク、クリティック・セッション

アーティスト・トーク

- 2016.02.20 ケイト・ジャスト、石井 言絵、五十嵐 恵、岩間 香純、YU Shuk Pui Bobby、明日少女隊「Feminist Fan in Japan and Friends」
- 2016.02.20 ジョッシュ・リチャードソン、ジョッシュ・シャックルトン「未完成な場所」
- 2016.02.20 アニー・ニュー「液体、紙とその間の空間」
- 2016.03.23 東山詩織、小津航「London/Tokyo Exchange program2015報告会」
- 2016.03.25 ティン・チャオン・ウェン「トークイベント」
- 2016.03.25 カーリン・ヴァンデコーヴ「sKinHouse. ed 2」
- 2016.04.27 ジュリア・マキナニー「recently my eyes - 最近の私の視点」
- 2016.04.27 ジョーダン・マッジ「Shōkai」
- 2016.05.22 マリン・ベッターソン・オバーグ「トークイベント- Through the lens of Japan - Species of Spaces 1974」
- 2016.06.05 ショーン・ラヴェール「Sean Lavelle」
- 2016.06.29 サラ・ベルトラン・ハメル、ブレンドン・オニール「プレゼンテーション」
- 2016.07.20 ディアナ・ダウリング「Young wood is restless」
- 2016.07.20 エレノ・ターンプル「How to fill in the time」
- 2016.07.25 ヨハナ・カーリン「プレゼンテーション」
- 2016.07.26 堀内崇志・展示作家等ディスカッション
- 2016.09.21 堀内崇志・郷治竜之介「Youkobo Y-AIR Studio Program 2016 活動成果報告会」
- 2016.09.21 スーモ「こっちみて！」
- 2016.09.28 ハヌー・ヴァイサネン「トークイベント」
- 2016.10.26 ティーナ・レヒコイネン「トークイベント」
- 2016.10.28 リオニ・アンドリュース「このとき」
- 2016.11.20 アルムート・リンク、カローラ・プラツェック「トークイベント Orientation as Gardening - 作庭としての方向性」
- 2016.11.21 アルムート・リンク、カローラ・プラツェック「トークセッション Orientation as Gardening - 作庭としての方向性」
ゲスト：西山雅俊、野田 栄一、鳥越けい子
- 2016.11.26 ハンネレ・ミカエラ・タイヴァッサロ「トークイベント」
- 2016.11.26 ヴァネッサ・ゴッデン「もどかしさの体現」
- 2016.11.26 ラデック・ブラウシル「富士を望まない限り 富士の上のコダック」

クリティック・セッション

- 2016.06.05 ショーン・ラヴェール「Sean Lavelle」
郷治竜之介「ヴ・・・ン」
- 2016.07.20 エレノ・ターンプル「How to fill in the time」
堀内崇志「実験中」

ライブ・パフォーマンス

- 2016.02.24 五十嵐恵「Feminist Fan in Japan and Friends - 論告要旨朗読パフォーマンス」
- 2016.11.13 マーリン・キヴェラ、ハンネレ・ミカエラ・タイヴァッサロ「Ninjas in the Park」@善福寺公園
- 2016.11.03 アルムート・リンク、カローラ・プラツェック「トロールの森2016 アートツアー」@善福寺公園
- 2016.11.23 アルムート・リンク、カローラ・プラツェック「トロールの森2016 アートツアー」@善福寺公園
- 2016.11.26 ヴァネッサ・ゴッデン「パフォーマンス」

2. 関連活動

AIR 事業の実践を通し、AIR がアーティストの活動の一つの要素となり、また同時に社会において大切な役割を持つ存在となることを目指す。主として海外からの滞在制作活動アーティストの機会と場を提供する AIR 活動をベースに、関連活動として、国内アーティストの海外での活動の機会と場の創設も大切なミッションと考えて、海外 AIR との交換プログラムの推進、さらに AIR 運営の実際の体験や、滞在者をサポートするインターンシップを通じた人材育成など推進している（Y-AIR）。また、国内外のAIRプログラム間、AIR 活動支援機関などとのネットワーク活動も積極的に展開している。地域でのアートを通した活動として、善福寺公園での野外アート展「トロールの森」、子供達とのワークショップ「アートキッズ」に継続して参画している。AIR実践をベースに関連する諸活動の調査研究として、マイクロレジデンスの一層の顕在化、AIRと美大の協働による無限の可能性の調査研究は、共有すべく活動報告として発表、また、調査したAIR情報は、遊工房滞在作家の活動記録と共に、閲覧できるように、アーカイブとしての整理を心掛けている。

2-1 AIR交流プログラム

AIR間交換プログラム

・KAIR（Kosice市、スロバキア）

KAIRと遊工房アートスペースのAIR交流プログラムの3年目。スロバキアからは、Oskár Čepan Award 2015受賞のラデック・プロウシルが、日本からは駒井弘枝がそれぞれ 2ヶ月間の滞在制作・発表をした。ラデックは滞在期間中に女子美術大学での講演を実施した。

2016.10.01-11.31 駒井弘枝（KAIR）

2016.10.01-11.30 ラデック・プロウシル（遊工房アートスペース）



・Kulttuurri Kauppila（Ii市、フィンランド）

Kulttuurri Kauppilaアートセンター創立10周年記念の2016年、発足時派遣したアーティスト・相原正美が7月～9月の2か月間再招聘となり、「喜怒哀楽」をテーマに、地元の子供たちとのワークショップと展示発表をした。このワークショップは、彼女の地元、北海道の子供たちと連携し継続した活動となっている。

KKは地元自治体と地元のアーティストの熱意により生まれたもので、創設の要となったAntti Ylonen は、2002年遊工房の滞在アーティストで、規模は小さいながらもフィンランドのみならず世界中からアーティストが参加する人気のAIR。10周年記念の特別イベントは、市長、名士、地元アーティストたちも大勢参加し、遊工房も日本から出席した。

2016.07-09 相原正美



派遣プログラム

・台湾・東海岸・大地芸術節 2016 TEC LandArt Festival Artist Residence Project

台湾の芸術家Pan Sheau-Shei, [Yuki]（本イベント芸術監督）からの依頼をもとに実現した。野外に設置されたインスタレーション作品「亀」は、地元の木材と石材を組み合わせ制作。東海岸の人気の野外スポットとなった。完成間近の大型台風の襲来時、野生の子鹿が待避場所として入り込み、大きく報道されるハプニングもあった。

2016.05.29 - 07.09 菅野麻衣子



・西ボヘミア大学ArtCamp（Pilsen市,チェコ）

国際的に人気のある、チェコ最大のアートのサマースクールへ若手アーティストや美大生を派遣をするもので、本派遣プログラムは、日本人アーティストによる講座実施者の派遣も、2015年から開始し2年目。2016年は建築家建築家・矢嶋一裕のよる「Japanese Tea House in Pilsen」の実現となった。また、研究者として、秋田の美術活動家・小熊隆博（ものかたり・主宰）を、秋田公立美術大の推薦を得て派遣、ArtCamp国内展開の可能性検討をテーマに参加した。尚、ArtCamp受講参加は4名、2013年から合計20名の派遣となった。（本稿はY-AIR項で細述）2016年12月には秋田公立美術大学と共催で、同大学と「ギャラリー・ものかたり（秋田県・五城目市）を会場に報告会を兼ねたシンポジウムを開催。

2017.07.11 - 07.15 矢嶋一裕（Art Camp - Architect / Japanese Tea House in Pilsen）

2017.07.03 - 07.21 小熊隆博（研究者派遣）



2-2 Y-AIRの実践

・Youkobo Y-AIR Studio Program

若手作家の遊工房スタジオでの活動支援プログラム。中断していた在京アーティストのスタジオ・プログラムを、Y-AIR構想に基づき、AIRと美術大学との協働事業として再開、2016年始動した。美大卒業後間もない新人作家の活動支援を行うもので、採択された在京の2人の作家によるスタジオでの6ヶ月間の独自活動を展開。期間中、シェアによるスタジオ制作活動と共に、ゲストを招いての批評や展示発表、遊工房AIRプログラムの海外滞在作家や研究者との交流・対話の機会も適時設けた。また、会期中、6週間、London/Tokyo Y-AIR Studio Program 2016に交互に参加、ロンドンでの滞在制作及び発表の機会が設けられた。最終月9月に活動の総括報告と展示会を、協力美大である東京藝大の参画を得て実施した。

- 郷治竜之介：1988年愛知生、油画科・2013年卒（ロンドン滞在制作2016/6-7）

- 堀内崇志：1991年北海道生、大学院彫刻科・2016年卒（ロンドン滞在制作2016/5-6）



・London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2016

ロンドン芸術大学CSM 校× Acme Studios で 2013 年より始まった若手作家支援プログラム ASP(Associate Studio Program)と東京藝大油画研究室×遊工房アートスペースによるY-AIRの相互交換プログラム。2015 年から始め、2年目の活動となった。

5-7月の3ヶ月、日本側から 堀内崇志と郷治竜之介が、UK側からは、Sean LavelleとEleanor Turnbullが各6週間、海外での滞在制作、調査研究をした。

1弾：2016.05.01-06.15

Sean Lavelle（遊工房アートスペース）⇔ 堀内崇（ASPプログラム）

2弾：2016.06.16-07.31

Eleanor Turnbull（遊工房アートスペース）⇔ 郷治竜之介（ASPプログラム）



・ArtCamp派遣プログラム

遊工房アートスペースと、国内美術系大学教官（研究室）の協力を得て、チェコの地方都市Pilsen市にある西ボヘミア大学で毎年夏に開催されている、アートの国際サマースクール「ArtCamp」に美大生およびアーティストを派遣するプログラム。EUジャパン・フェスト日本委員会の紹介と支援により、2013年より始まった。2016年までの参加累計20名となった。異文化での短期滞在型(3週間)創作交流の体験機会をAIRの模擬体験の場と捉え、アートとの研鑽と共に、国際交流に挑戦するもの。2016年は、東京藝大、女子美、秋田公立大ほか4名の参加（平石かなた、小熊隆博、森千咲、王璟怡）2016年12月には、秋田公立美術大学で報告会を開催した。



・Y-AIR 講演

遊工房AIRアーティスト

東京藝術大学 油画学科学部二年 特別授業「Artist Talk」

2016.05.17 マリン・ペッターソン・オバーク

2016.06.02 ディアナ・ダウリング

女子美術大学 特別公開講座「国際交流文化概論B」

2016.11.11 ラデック・プロウシル



遊工房スタッフ

秋田公立美術大学「異境と出会う芸術 現地滞在型制作（AIR）の創造性/「国際アート・キャンプとマイクロ・レジデンス」

2016.03.15 村田達彦

東京造形大学CSC特別講座 アーティスト・イン・レジデンス講座@東京造形大学

2016.11.17 村田達彦、松本恭吾「アーティスト・イン・レジデンスの事例」

21世紀鷹峯フォーラム「A hundred threads」記念フォーラム「世界とつながる工芸の未来」@虎ノ門ヒルズ

2016.11.12 辻真木子「Artist in Residence for Young - Y-AIRの取り組み」

2-3 ネットワーク活動

国内外のAIRネットワーク組織への参画と共に、各AIRプログラム間や、AIR活動支援機関との繋がりなど、様々なネットワーク活動を積極的に展開し、AIRが、社会的な存在となることを目指している。

①AIRプログラム

新規

- ・Tapiola Studio（Finnish Artists' Studio Foundation, ヘルシンキ）2017年より交換開始

継続

- ・Kulttuurri Kauppila（li, フィンランド）：開設10周年記念事業参画・作家派遣と交流
- ・ArtBreak（li, フィンランド）：2017年より新規企画調査・検討
- ・KAIR（Kosice, スロバキア）：2016年秋、各1名の2か月相互交換実施。
- ・OPENAiR/DEPO2015（Pilsen, チェコ）
- ・Acme Studios（London）：London藝大CSM校・ASPとの交換。2016年2年目、計4参加。

②AIR活動支援機関

新規

- ・Finland Writers Union(ヘルシンキ)：2016年より年間受入の覚書締結。
- ・Finnish Artists' Studio Foundation（ヘルシンキ）：2017年より交換計画の覚書締結。

継続

- ・EUジャパン・フェスト日本委員会：新旧の欧州文化首都にあるAIR情報共有
- ・ルクセンブルグ文化省・在京ルクセンブルグ大使館：2016年4年目、1名受入
- ・Asia Link（オーストラリア）：2016年、1名受入
- ・Asia New Zealand Foundation（ニュージーランド）：2016年1名受入

③美大他教育研究機関

新規

- ・ Lapland大学：2017年より地元AIRとの連携交流覚書

継続

- ・ 国内美術大学、大学芸術学部：Y-AIR研究会
- ・ London藝大・CSM校：ASPとの交換プログラム・2015年開始、累計8名参加
- ・ 西ボヘミア大学芸術学部：ArtCampへの派遣（講師、研究者、受講生）・2013年開始 累計講師2名、研究2名、受講20名。

④その他の機関

新規

- ・ 天空の芸術祭（長野・東御市）：AIR活動支援

継続

- ・ さいたまトリエンナーレ（さいたま市）（作家派遣：Home Base Saitama、Daniel Gottin）
- ・ すぎなみ戦略的アートプロジェクト
- ・ 「3331 Art Fair-Variou Collectors Prizes-（アーツ千代田）」

⑤AIRネットワーク組織

- ・ Res Artis（Amsterdam）：AIR 運営団体ネットワーク。200年より正会員。
- ・ Microresidence Network（Tokyo）：マイクロレジデンスの顕在化サイト。2012年発足
- ・ Trans Artists（Amsterdam）：世界最大のAIRデータベース運営。
- ・ Trans Cultural Exchange（Boston）：米国BostonベースのAIRネットワーク。

- ・ AIR-J（国際交流基金）：国内AIRデータベース
- ・ MoveArtsJapan（アーツ千代田）：アーティストの国内活動支援サイト
- ・ J-AIR（東京）：国内AIRネットワーク
- ・ AIR Network Japan（東京）：国内AIRネットワーク

2-4 地域活動、コミュニティーアート アートキッズ

「アートキッズ」とは子供を対象に、遊工房アートスペースの隣にある桃井第四小学校で行われる斬新なアートワークショップである。15年目を迎え、これまで多数のアーティストたちの指導により展開してきたこの活動は、参加した児童が創造的な可能性をより広げる機会を与えている。2016年は、日本で活動中の英国出身のアーティスト、ジェイミ・ハンフリーズを中心に、様々なワークショップの企画が行った。昨年に引き続き、女子美術大学の学生によるワークショップも展開した。

7月9日 ：ころっとあそぼう！ with あそびアンテナ（女子美術大学の学生ユニット）

12月10日 ：不思議な生き物



トロールの森

トロールの森は、都立善福寺公園を主会場として 2002 年に始まった3週間の国際野外アート展である（15年目）。2013年からはJR西荻窪周辺へとエリアを拡大し、カフェでの展示をはじめ、自然食レストランやピリヤード場を使った舞踏やマイム公演、まちの歴史をたどって歩くイベント等を実施するなど、「野外×アート× まちなか」をテーマに開催された。

「野外×アート」は、善福寺公園でのダイナミックなインスタレーションのほか、日・祝日を中心にしたワークショップ、多彩な身体表現を楽しむ野外劇場を展開。27組の作家たちが様々なプログラムで園内を賑わせた。「まちなか×アート」は、西荻窪から善福寺公園をアートでつなぐプログラムで、10団体が展示やパフォーマンスに参加した。

遊工房アートスペースからは、アルムート・リンクとカロラ・プラツェック（オーストリア）が公園と遊工房ギャラリー/Studio1の2サイトでインスタレーションを展開。また、Studio1ではKAIRとの交換プログラムに参加したラデック・ブラウシル（チェコ）、Studio2ではヴァネッサ・ゴッデン（オーストラリア）がオープンスタジオを開催した。

アルムート・リンクとカロラ・プラツェック

2016.11.03 - 2016.11.23 「Orientation as Gardening - 作庭としての方向性」

8種類の組立式ボード「違い棚」の集合体（以下、ボードと呼ぶ）と、8部の物語テキスト（以下、テキストと呼ぶ）を用いて、善福寺公園と遊工房アートスペースにおいてインスタレーションを行った。

ボードは、伝統的な書院造に基づくもので、人の大きさに拡大され、公園のオープンな空間に再配置された。これらのボードは枠組みであると同時に家具であり、公園の展示場所それぞれの独自の状況に合わせたものとなっている。8箇所の展示場所は、あくまでも複数の視点を選び出したものであり、無限の可能性の一面に過ぎない。さらにテキストを作成した。8部の本からそれぞれ一つのエッセンスとなる言葉を抽出し、このモチーフに対して詩を創作した。8部の全ては、互いに関係し合いながらも、独立したものである。

遊工房アートスペースのギャラリーには、公園内に設置されていないボードとテキストの全てが留め置かれる。これらは、同時に展示であり、アーカイブであり、ストレージとなる。

本プロジェクト、「作庭としての方向性（Orientation as Gardening）」は、オーストリア学術ファンドFWF/PEEK AR 325によって運営されている「ウィーン美術アカデミー（Akademie der bildenden Künste Wien）」のアルムート・リンクとカロラ・プラツェックによる、芸術・学術的な研究プロジェクトで、アーティストたちは秩序、方向性、形成、主体化の仕組みについて取り組んでいる。尚、この活動は、東京の後、2017年3月ロンドン、4月ウィーンと続く。

【野外×アート】



【まちなか×アート】



【野外×アート】

マーリン・キヴェラ&ハannel・ミカエラ・タイヴァッサロ

2016.11.13 - 2016.11.13 「Ninjas in the Park」

【まちなか×アート】

ラデック・ブラウシル

2016.11.23 - 2016.11.27 「富士を望まない限り 富士の上のコダック」

ヴァネッサ・ゴッデン

2016.11.23 - 2016.11.27 「もどかしさの体現」



2-5 調査研究

AIR活動実践を通じた調査・研究活動として、Face to Faceの対話をベースに相互訪問、寺子屋的な会合の展開、そしてフォーラムやシンポジウムでの公開の場に展開。報告等通じた情報共有を進めている。

調査訪問

2016.01.19 - 01.26 ロンドン (London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 事前MTG) 村田達彦、辻真木子
2016.06.14 - 06.21 アルメニア (マイクロレジデンス・ネットワーク フォーラム) 村田達彦、村田弘子
2016.08.24 - 09.02 フィンランド (マイクロレジデンス・ネットワーク) 村田達彦、村田弘子
2016.12.04 秋田県五城目 (Y-AIR ArtCamp 秋田研修) 村田達彦、村田弘子、辻真木子

寺子屋

2016.06.15 ACOSS、アルメニア 村田達彦、村田弘子
2016.08.31 Hiukkavaara artist's studios, フィンランド 村田達彦、村田弘子

フォーラム・シンポジウム等

2016.05.15 「オルタナティブスペース・フォーラム - 自ら場所を創る -」 辻真木子 @ 3331アーツ千代田
2016.12.03 「秋美ArtCamp報告会 国際交流シンポジウム - チェコから秋田へ アートキャンプの試み」 村田達彦、辻真木子@秋田公立美術大学

ほんとうのはなし

2016.03.05 堀真理子、王 舒恬「AIRs Vol.12 アーティスト・イン・レジデンスほんとうのはなし セルビアと中国を中心に…」
2016.07.16 村田達彦、辻真木子「リサーチプレゼンテーション アルメニア・台湾編」
2016.12.23 松本恭吾、渡辺望、ジェイミ・ハンフリーズ「AIRs Vol.12 アーティスト・イン・レジデンスほんとうのはなし」



2-5 アーカイブス

AIR実践をベースに関連する諸活動、マイクロレジデンスの一層の顕在化、AIRと美大の協働による無限の可能性の調査研究は、共有すべく活動報告として発表、また、調査したAIR情報は、遊工房滞在作家の活動記録と共に、アーカイブとしての整理を心掛けている。国内外のAIRプログラムデータ、滞在アーティストの活動記録、調査研究の成果のアーカイブは順次閲覧できるようにしており、AIRへの参加の助言、AIR設立やネットワーキングの相談なども適時受付けている。

AIR プログラムの調査・研究を通じ、AIR、そして「マイクロレジデンス」の顕在化する活動も進めている。アーティストと共に、社会でのその活動の意義が広く浸透することを願っている。

・出版物、掲載記事など

1. 出版物

カタログ

-MICRORESIDENCE!2015 Case Examples of Y-AIR in Japan vol.1

冊子

-Y-AIR Case Study, London/Tokyo Y-AIR Exchange Program2015

-European Capital of Culture, ECoC 2015 Pilsen - Activity Report Part 4 AIR Exchange Program between Youkobo and ECoC

-アートのサマースクールArtCamp in チェコにおける日本の取り組み 2015

-ArtCampと共に、日本の取り組み・この4年間

2. 動画記録

Orientation as Gardening - 作庭としての方向性 | アルムート・リンクとカローラ・プラツェック記録動画

3. AIR展覧会カタログ、案内状など

会期	イベントタイトル・アーティスト	内容
2016.02.20 - 2016.02.26	Feminist Fan in Japan and Friends ケイト・ジャスト、石井 言絵、五十嵐 恵、岩間 香純、嶋田 美子 YU Shuk Pui Bobby、明日少女隊	DM、カタログ
2016.03.23 - 2016.03.27	「みどりの面」と「ピンクの滝」 小津航 東山詩織	DM
2016.03.23 - 2016.03.27	sKinHouse. ed 2 カーリン・ヴェンデコフ	DM
2016.06.05 - 2016.06.12	ヴ・・・ン 草野温子 郷治竜之介 布施琳太郎 ホーガン・ジェシー 村田啓 山形一生	DM
2016.06.05 - 2016.06.12	Sean Lavelle ショーン・ラヴェール	DM
2016.07.20 - 2016.07.25	Young wood is restless ディアナ・ダウリング	DM、カタログ
2016.07.20 - 2016.07.25	How to fill in the time エレノ・ターンブル	DM
2016.09.21 - 2016.09.25	こっちみて！ スーモ	DM、カタログ
2016.10.26 - 2016.10.30	このとき リオニ・アンドリュース	DM、カタログ
2016.11.13 - 2016.11.13	Ninjas in the Park マーリン・キヴェラ&ハンネル・ミカエラ・タイヴァッサロ	フライヤー
2016.11.03 - 2016.11.23	Orientation as Gardening - 作庭としての方向性 アルムート・リンクとカローラ・プラツェック	フライヤー、カタログ
2016.11.23 - 2016.11.27	富士を望まない限り 富士の上のコダック ラデック・ブロウシル	DM、カタログ

4. 掲載記事等

美術手帖 ART NAVI、月刊ギャラリー、Tokyo Art Beatにて展示情報掲載

- ・雑誌「ONBEAT」ONBEAT vol.05 6月発売株式会社音美衣社 フローラ・マーの滞在活動
- ・雑誌「GINZA」9月号2016年8月12日発売 AIR・遊工房の紹介
- ・雑誌「A2 magazine」9月発売チェコにて発売 滞在中に実施したMichalと粉川哲男氏の対談記事
- ・雑誌「東京人」12月号 2016年11月3日発売 トロールの森広報
- ・雑誌「散歩の達人」11月号 2016年10月21日発売 トロールの森広報
- ・ムック「東京ミュージアム散歩」朝日新聞出版 トロールの森広報
- ・広報誌「広報すぎなみ」 2016年10月21日発行 トロールの森広報

- ・フリーペーパー「PICNIC GOHAN」トロールの森広報
- ・フリーペーパー「ぼど」タブロイド首都圏直営版 2016年10月7日号トロールの森広報

- ・東京新聞夕刊広告 2016年10月31日掲載

- ・ウェブサイト「Spoon&Tamago」展示Feminist Fan in Japan and Friends、アーティスト紹介2016年2月公開
- ・ウェブサイト「CINRA.net」展示Feminist Fan in Japan and Friends紹介
- ・ウェブサイト「luxuriant」SUMOインタビュー10月掲載
- ・ウェブサイト「すぎなみLOVERS」2016年10月31日公開
- ・ウェブサイト「なみじゃない杉並」 2016年11月3日公開
- ・ウェブサイト「FESTivaly」 2016年11月3日公開
- ・ウェブサイト「リビングむさしのWEB」2016年11月3日公開 トロールの森広報

- ・テレビ番組（ルクセンブルク）「Live Planet People by RTL」SUMO 滞在中の活動紹介 10月放送

秋田公立私立美術大学 国際交流シンポジウム「チェコから秋田へ アートキャンプの試み」

【日程】12月3日：全体会、12月4日：五城目研修ツアー

・ ArtCamp/International Summer School of Art 参加報告

- 辻真木子（遊工房アトスペース）「遊工房におけるY-AIRの実践 ArtCamp(チェコ)との4年間の取り組み」
-平石かなた（秋美4年）、王璟怡（女子美 修士2年）、森千咲（美術家）「ArtCamp 報告」
パネルディスカッション「秋田国際アートキャンプの可能性」
-小熊隆博（ものかたりディレクター）「ArtCamp体験及び企画運営に関するリサーチ報告“自由な表現”の機会をマネジメントする」
-矢嶋一裕（建築家）「ArtCampに参加して考えたこと」
-齋藤一洋（秋田市企画財務部企画調整課長）「芸術・文化によるまちおこし~秋田市のまちづくりの取り組み~」
-OJUN（東京芸術大学）、日沼禎子（女子美術大学）、村田達彦（遊工房アトスペース）
司会：志邨匠子（秋田公立美術大学）

・BABAME BASE 見学

- ・シェアビレッジ町村 見学
- ・ものかたり見学（見学、ギャラリー・トーク ゲスト：北原和規）

参加者：志邨匠子、石井言絵（秋美）、小熊隆博、矢嶋一裕、平石かなた、王璟怡、森千咲、村田達彦、村田弘子、辻真木子

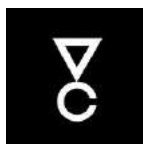
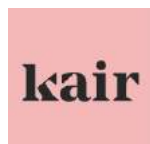
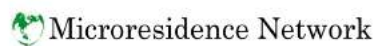
27

2016年活動一覽 - overview

	Space	Jan.	Feb.	March	April	May	June	July	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.
AIR Program	Residence 1		Josh Richardson & Josh Shackleton (Hildoceras)	Julia McInerney	Deanna Dowling *Asia New Zealand Foundation				SUMO *Embassy the Grand of Luxembourg	Radek Brousil *KAIR			Franck Lesbros
	Studio 1												
	Residence 2			Karien Vandekerkhove	Jordan Madge	Sean Lavelle • Eleanor Turnbull *London/Tokyo Y-AIR Exchange Program				Leonie Andrews *Asialink	Vanessa Godden		
	Studio 2		Anie Nheu										
	Residence 3		Kate Just	Ting Chaong Wen	Malin Pettersson Öberg	Sarah Bertram & Brendon O'Neill	Johanna Karlin	Mark Dunhill & Tamiko O'Brien	Hannu Väisänen • Tiina Lehtikoinen Malin Kivela & Hannele Mikaela Taivassalo *Finland Writers Union				Naomi Reis
	Studio 3												
				Shiori Higashiyama & Wataru Ozu *Y-AIR Exhibition									

Reciprocal Exchange Program													
Dispatch Program													

Self-funded
 Institutional Recommendation Program
 Y-AIR
 Event



遊工房アーツスペース 年間報告 2016

編集：遊工房アーツスペース
〒167-0041 東京都杉並区善福寺 3-2-10
TEL/FAX: 03-3399-7549
E-mail: info@youkobo.co.jp
URL: <http://www.youkobo.co.jp>
2017 年 1 月発行

© 遊工房アーツスペース